町村新報

發行日　毎月二回　一日　十五日
編輯兼印刷發行人　酒井秀吉
發行所　福島縣石城郡磐崎村大字下湯長谷勝善三十八番地　町村新報社
定價　一部金七錢（郵稅共）一ケ月十四錢　半ケ年八十錢　一ケ年壹圓五拾錢
廣告料　五號活字十二字詰　一行金二十錢　別色刷　四十錢

景氣不景氣

世間の事凡てがグル〳〵廻りである、循環する處に妙味がある、直線に走れば何時かは果てにぶつゝかる、行詰りになる、丸い物には初めもなければ終りもない限りがあつて限りがないのは圓である、宇宙は廣大無邊である、否宇宙にも限りがある、天の川の巾は三十万光年である、宇宙の廣さは百萬光年程あると天文學者は言ふ、然し他の日月星辰の圓いのは誰も異存がない、宇宙万物の基本は丸である、地球が昔の考への樣に際限があつたら、今迄存在はして居ない、世の中のありとあらゆる事物も之に併ふ、景氣不景氣も其の通りである、過般の總選に政友會は景氣か不景氣かを振りかざして國民に訴へたが民政黨は緊縮一点張りで之に向つた、結果は民政黨の大勝に歸した、そして國民は緊縮主義に服從し不景氣に甘んじて居る、五十八議會は、軍縮問題が八釜間敷叫ばれ、肝腎の景氣問題や失業政策は、案外政友會でも問題にしなかつた感がある、世間は毎日〳〵不景氣の深刻味を加へて來る、緊縮する、買はない、賣れない、生產されても只死藏しては本が續かないから、涙を振つて休業をする、或は手控をする、只食べさせる金がないから解雇となる、失業者は殖える斗り、ない袖は振られぬだ、行詰つてやめるのに手當などやりたくもやれぬ、儲からぬ商賣斗りである、食つて行ける者は先づ仕合せである、事業界は不振の坂を通り越して今では萎縮しつゝある狀態である、國產品の愛用を宣傳しても買ふ者がなければ何にもならぬ、外國でも國產品愛用、緊縮節約をやつて居たら輸出も振はぬ事になる、景氣から不景氣へ夫から又景氣へと、返つて行くのは今の經濟組織には免れる事が出來ぬ眞理である、今は其受難時代である農民は食ふ丈で、着るも住むも出來ない有樣、工業家は將に破綻の憂目を見やうといふ境界、商人は薩張り儲からず、買ひば下り〳〵の不振、此の間獨り昔の好景氣時代と何等變らないのはお役人丈、濱口首相も官吏一割減棒問題で匙を投げたきり、治める者と治められる者とは、人間が別に出來て居ると思はれる、役人も國民なら一般人民と共に經濟受難時代に處して同じ苦難を甞めるのが普通である、寧ろ範を示すのが最もよい事ではないか、膏血を絞つた稅金から自分斗り美衣美食に、其品位とやらを保たねばならぬ方は如何した事か、吾々は先づ第一に行政方面の整理をやらねば景氣は出ないと考へる、軍縮問題などより食ひない人間がウヨ〳〵して居る事をよく見て貰ひたい、紙屑拾ひが生計を立てゝ行ける樣にならねば社界として、ありがたい時代ではない、爲政者は余り實際とかけ離れた政治を行つて居まいか。

裏切られた

農民の健康狀態

內務省の斷案

是迄誰もが農民は非常に健康のもので、皆頑健と迄思はれて居たのである、處が今回內務省衞生局での調査は、全然之を裏切つて實に不健康地は農村であるに至つた。

動いても〳〵食ひぬ農民である、社界の下積みになつて過激な勞働を强られ食物は、只生を繼ぐ丈である、榮養價の高い物は皆賣り出され、粗衣粗食に甘んじ實に悲慘な生活狀態である、鑛山夫などにも劣る狀況にある、改善の主なる物は左の通りである。

一、農村醫療機關の普及
一、農村住居の改善
一、飲料水、榮養の改善
一、乳幼兒、妊產婦の保護
一、寄生虫、地方病の豫防

寄生虫は農民の八十五パーセントが之に罹つて居ると言はれる、虛弱な兒童は農村に多い事實が現はれて居る。

第一

農村の出生死亡率は都會に比し皆多い、死因は第一位が肺炎、第二位は下痢、第三位が老變といふ順である肺結核、癌は都會に多く老變の農村に民いのは過勞を物語るものである。

第二

徵兵檢査に甲種乙種は平均稍々多いが、不合格及び疾病者の丁、戊は農村に多い小學兒童の平均体量、身長も劣つて居る。

第三

農民は一人で平均一病以上の持主である、病人でないものは一人もない事になるとは驚くべき事である。

第四

農民の榮養は、副食物が惡く、肉頭一日一人一錢六厘貧弱村では只の僅か五厘の處もある、小學兒童の辨當は米、麥、粟、芋などで副食物は八割は毎日梅干か澤庵斗りである。

其他

住宅は不潔で、飲料水は五割六分は不良である、醫藥に投ずる金額は、一年に一人當り三圓九十一錢で全國一万三百八十六ヶ村の農民約三千五百万人で一年の藥代少くも一億五六千万圓ななる。

磐崎村の

家調委員當選

去る五月十一日施行されたる磐崎村家屋調查委員は、十二名にて藤原三名、上湯長谷二名他大字一名宛の振當てにて無競爭の豫定であつたが、藤原に於て一名多く立候補せしため、遂ひ運動も演出された。其の結果は左の如し

瀧有司	五十一票
金成仙藏	四十七票
大井川半兵衛	四十六票
佐藤八郎	四十四票
吉田陟	四十三票
矢內彥次郎	四十三票
岩並政雄	四十票
芳賀良太	三十七票
箱崎恒彌	三十三票
野木左太郎	三十二票
太田原憲太郎	三十一票
大平左久馬	二十七票
吉田金市（次点）	十九票

となりたが、第二次調查委員の選出は興味ある問題である。

肥料の消費高

農林省の調査

肥料の消費高は、遂年增加の傾向を示し、明治三十六年には其の額二千九百萬圓に過ぎなかつたものが、最近三ヶ年の平均は、其約十倍の三億余万圓に達して居る、生產及び輸入狀況は左の通りである。

◆內地に於ける生產

肥料需要の增加に從ひ、化學工業發達し、最近三ヶ年平均產額は二億九百九十七万圓に及び昭和三年末現在は

鰊搾粕	三八、〇〇〇噸
大豆油粕	二四三、七五〇噸
硫安	一三二、四二五噸
石灰窒素	一五九、九三八噸

である、其內硫酸アンモニアは、明治三十八年初めて生產せられ、同年には僅か四百八十八トンの製造高であつたが、大正元年には七千三百卅三トン昭和三年には二十三万トンに及んで居る。

◆輸入肥料

最近三ヶ年平均の輸入額は一億六千余萬圓で、明治三十六年の千二百八十五万圓に比すれば十二倍になる。大正元年には、四千三百余万圓であつた、大豆油粕は九千余万圓、硫安は三千八百万圓、智利硝石は七百十万圓に達して居る。

◆內地移入

明治三十六年には、僅か四百圓に過ぎなかつたが、大正元年には五百余万圓となり、昭和三年には一千五百六十二万に及んで居る、其內樺太より八百六十万圓、朝鮮より約七百万圓、台灣からは僅か四万圓である。

養蠶狀況

當地方の養蠶は、目下の處二眠位にて、桑葉の發育も良好、蠶兒も順調に成育せるもの丶如く、繭價は、先行定値を豫想せらるゝも天候等に激變なき限り、增產を思はる、從つて農家の不景氣に一抹の生氣を加ふるものと考へらる。

物價

◎玄米八斗十八圓五十錢位
◎大豆粕一枚深川
一圓六十三、五錢

印刷物は甲子堂

當選御禮
家屋調查委員
瀧有司
大井川半兵衛
佐藤八郎
吉田陟
矢內彥次郎
岩並政雄
芳賀良太
箱崎恒彌
野木左太郎
太田原憲太郎
大平左久馬

募集
各町村駐在記者
希望者ハ自筆履歴書御送附ヲ乞フ
町村新報社

親切叮嚀
ツ
運送店
湯本驛前